

ホームルーム活動（人権）学習指導案

令和 年 月 日
ホームルーム 名
指導者

1 主 題 災害時における人権問題

2 主題設定の理由
(学級の実態については省略)

第1回の人権学習ホームルーム活動では、人権問題意識調査の結果から、「いじめられている側には責任があるか」という議題で生徒に議論をさせた。その中で、「もし問題があれば、いじめという手段ではなく、注意することや話し合いなど別の方法をとるべきである」という結論が出た。集団生活を円滑に行うためには、他者との違いを認め合い、思いやりをもつことが必要であることを学んだ。

本時では、災害時における人権問題について考えさせる。最近の日本では、大雨や地震など様々な自然災害が発生しており、私たちの生命や生活に大きな影響を与える。災害が発生した際の避難所に指定されている本校には、「災害時要援護者」も多く避難してくることが想定される。そこで、災害時に本校が避難所となったときに、どのような「災害時要援護者」が避難してくるのかを想像し、自分事として誰もが安全に安心して過ごせる環境づくりについて考えさせ、互いの人権を尊重し行動していこうとする態度を養いたいと考え、本主題を設定した。

3 ね ら い

災害発生時の避難所において起こる人権問題を自分事として捉え、他者のことを想像してその問題を解決するために自分ができることを考え、行動していこうとする態度を養う。

4 指 導 計 画

- (1) これまでの学習
- 第1回 人権問題意識調査から考える . . . 1 時間
- (2) 本時の学習
- 第2回 災害時における人権問題 . . . 1 時間
- (3) これからの学習
- 第3回 同和問題解決のための運動の歴史から学ぶ (ビデオ学習) . . . 1 時間
- 第4回 同和問題解決のための運動の歴史から学ぶ (通常学習) . . . 1 時間
- 第5回 様々な人権問題に学ぶ . . . 1 時間

5 本時の学習

(1) 目標
災害発生時の避難所において起こる人権問題を自分事として捉え、他者のことを想像してその問題を解決するために自分ができることを考え、行動していこうとする意欲を高める。

(2) 普遍的な学習のテーマ . . . 個人の尊重, 生命の尊厳
個別人権課題名 災害時における人権問題

(3) 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
導 入 (5分)	○前回の学習で集団生活を円滑にするために話し合ったことを確認する。	○本時の授業の流れを説明し、目標を理解させる。 ○災害時の避難所も多様な人たちが集まった共同体であることを伝え、本時の目標を理解させる。	
展 開 (40分)	○どのような人（「災害時要援護者」）が避難してくるのか想像し、発表する。 ○多様な人が過ごす避難所において、どのような問題が生じるのかグループで話し合う。 ○避難所が、誰にとっても安全で安心して過ごせる環境となるために必要な工夫や取組について話し合う。 ○日頃からどのような行動やつながりが必要か話し合う。	○本校が避難所となったときに、どのような人（「災害時要援護者」）が避難してくるのか想像し、自分事として考えるように伝える。 ○各タブレットに送信した災害時の避難所の様子を表した写真やデータをもとに考えさせ、他者の意見を尊重するように伝える。 ○「災害時要援護者」の立場となって、自分たちにできることを考えさせる。 ○自分自身が「災害時要援護者」となる場合があることを伝える。 ○避難所での行動は、日常の行動の延長線上にあることに気付かせる。	○避難所となったときを想像し、自分事として考えることができたか。 (価値的・態度的側面) ○他者の意見を尊重し、自分の意見を発表することができたか。 (技能的側面) ○他者の立場となって考え、自分たちにできることを考えることができたか。 (価値的・態度的側面) ○避難所での行動は、日常の行動とつながりがあることに気づき、日頃から他者のことを想像して行動することの大切さを理解できたか。 (知識的側面)
まとめ (5分)	○本時のまとめを聞く。	○災害時には、「災害要援護者」だけでなく、全体のことを考えて思いやりをもった行動が必要であることを理解させる。また、災害時だけではなく、日頃から他者のことを想像し、考えて行動することの大切さを伝える。	○他者のことを想像し、人権問題を解決していくために考え、行動していこうとする意欲を高めることができたか。 (価値的・態度的側面)